

会 議 録

会 議 の 名 称		令和元年度 第1回豊中市公共施設等有効活用委員会	
開 催 日 時		令和元年（2019年）6月10日（月） 17時30分～18時30分	
開 催 場 所		障害福祉センター 2階 会議室	公開の可否 ☒ 可・不可・一部不可
事 務 局		都市経営部 創造改革課	傍 聴 者 数 2人
公開しなかった理由			
出席者	委 員	○公共施設等有効活用委員会委員4名 木多道宏委員、小泉海斗委員・深澤俊男委員・和田聡子委員 （五十音順）	
	事 務 局	○都市経営部 榎本部長 ○創造改革課 岩佐課長・橋本主幹・宇佐美主査・上野主事 橋爪主事・坂西主事	
	そ の 他		
議 題		1. 南部地域活性化基本計画について 2. 市民提案募集について	
審議等の概要 (主な発言要旨)		別紙のとおり	

審議等の概要（主な発言要旨）

発言者	内容
< 1. 南部地域活性化基本計画について >	
事務局	（資料に基づき説明）
委員	P.7「子育てと言えば南部」という記載は、裏返すと他の地域はどうかというような疑問を生じさせる可能性があるので、誤解のない表現を検討した方が良い。また、市民の方に理解してもらいやすいように基本計画にスローガンを付すなど理解しやすいような工夫があれば良いのではないかな。
委員長	高齢者の知恵が若い世代に循環して地域が成り立つものであるが、現在は世代間のつながりがなくなっているところが多い。地域の高齢者が生き生きできる仕組みを考え、ICT を活用する時に高齢者が外れてしまわないよう考えることが大事である。
委員	南部地域における転出入超過状況のグラフにおいて、子育て世代の方々が転出超過しているが、南部からどこに転出しているか、例えば、市内であればどの地域か、また、市外であればどこに転出しているか把握しておく必要がある。
委員長	グラフで 20 歳台が転入超過しているが、30 歳台になると転出超過しているので、20 歳台の転入された方がどのように南部で過ごしているかわかれば参考になるのではないかな。
委員	直近の事業者の転出入超過状況や事例も把握した方が良い。どんな事業者が「何時」「どれだけ」「どこから」転入しているか、また、「どこ」に転出しているか。特に、事業者の属性はどのようなものかわかるとさらに何らかの傾向が見えてくるのではないかな。
委員長	南部は交通の利便性が高いので、物流の事業所にも適した立地である。物流は世の中を変えられているので、地域に変革をもたらすかもしれない。物流を取り込んでいくか検討しても良いのではないかな。
委員	物流関連を取り込むことは南部のポテンシャルを高める可能性がある。
委員	南部地域は教育施設が刷新されるので子育ての柱は大切だと思うが、北部の教育・子育てのイメージも併せて持ち、南部は新たな子育ての場として検討してはどうか。野田センターを見学した際にこども達が生き生きしていた。子育て世代に良い施設があるので、居住環境をどうするか、「住」のハード整備を考えないといけない。既存の方たちが居住している地域に新たな方がどのように移り住んで来るか課題である。教育先進地のモデル化という部分で考えると大阪音楽大学とどのように連携していくか検討する必要がある。
委員長	南部は住環境のスケール感が良くできている。マンションだけで

発言者	内容
	は寂しい雰囲気になり、こどもの見守りも難しい。構造物を新しくする際には今あるスケール感を継承し、南部の良さを残すようにしてほしい。1 階が店舗、2、3 階が居宅というまちのあり方は南部の良さでもあるので、その良さを活かしていれば良いのではないか。
委員	小中一貫校になることを子育て世代の方にどのように周知活動しているか。
事務局	各校区で学校整備に関する説明会等を実施している。小中学生がいる家庭には浸透していると考える。
委員	南部地域に居住されている子育て世代以外の方にも浸透しているか。子育て世代以外の方々の協力も必要になってくるので、その方々への周知活動も必要である。転出される方にも周知されていれば転出減少の一つのきっかけになるかもしれない。
委員	全国転勤の可能性があり、大阪市内に事業所がある場合、豊中市に仮住まいすることが多いと考えるが、転出した方が他地域を選択したのか、人事異動で余儀なく転出しているか知りたいところである。南部地域に居住しようと考えたときに、家族で居住できる物件が少ないと感じる。北部や中部と異なる南部の魅力を市として把握しておく必要がある。駅までフラットアプローチできることや南部の既存の住環境の良い雰囲気も活かし、スモールスタートでカフェを誘致したりして、居住している方が自ら SNS で発信するような状況になれば活性化も進むのではないかと考える。
委員長	コンセプトを子育てだけでなく、北部とは異なる魅力を高齢者、子育て世代や事業所に伝え、新たなビジネスの展開にも繋げていく。人口動態や事業所動態などの地域分析が重要である。一人ひとりのライフスタイルのあり様について考えなければならない。30 歳台がどのような理由で転出しているか把握すること、新たな教育を打ち出していく際に、大阪音楽大学との連携を考えていくこと、南部の身近なふれあいを維持できるよう住環境を整備していくことが大事である。
< 2. 市民提案募集について >	
事務局	(資料に基づき説明)
委員	パブリックコメントはどのような方法を検討しているか。
事務局	通常、ホームページや公共施設に行政案を置き、書類によりご意見を求める。
委員	パブリックコメントの募集期間はどれほどか。
事務局	約 1 ヶ月を想定している。
委員長	市民提案受付もパブリックコメントと同期間で実施するか。小学生から柔軟な発想の提案があるかもしれない。

発言者	内容
事務局	パブリックコメントでいただくご意見の中で学校跡地の利活用に関するご提案もいただく想定である。
委員	パブリックコメントについては、市施設に行けない方やインターネットを利用できない方にも情報が届くよう配慮する必要がある。
事務局	パブリックコメントの意見数が少ないことに対し、意見募集をする前に広く、様々な機会を通じ、事前の周知を考えていく必要があると考えている。
委員	学校跡地利活用を含めた南部地域活性化基本計画の内容は、市民の方のみではなく、企業の方も知りたいと思う。
委員	小学生から思わぬ提案があることも期待できる。将来のまちについて考える機会があると良い。事業者の視点からも意見をもらえると良いのではないかな。
委員	事前の周知があれば市民の方々も準備ができるのではないかな。
事務局	パブリックコメントという形式ではないかもしれないが、こども達から意見をもらえるよう柔軟な対応を検討したい。
委員	様々な方の意見を聞くというのが重要である。
委員長	様々な意見がでることで活かせる意見もあると考える。せっかく市民提案という形で募集するので、方法を検討してもらいたい。今までと異なる方法が困難であれば、学校跡地の利活用についてワークショップを開く等検討してもらいたい。
委員	スケジュールについても柔軟に検討することが必要である。